

令和8年度 八王子市立中山中学校 学校経営計画

はじめに

中学校教育の使命は、生徒の自己肯定感・自己有用感を育み、一人ひとりの良さを伸ばし自立に向かう基礎を培うとともに、平和的な国家、社会の形成者として必要な資質・能力を養うことにあります。私たちは、グローバル化、急速な技術革新といった変化の激しい時代にあって、人と人が心通わせ伝え合い助け合う共生社会の中でしなやかにたくましく生き抜く人材を育成することを目指します。生徒一人ひとりが、周囲の人々と支え合い協働しながら自分の良さに気づき、自分の良さを伸ばし、自信をもって自分の道を歩いていけるよう、全教育活動を通して支援します。

そのために、八王子市教育委員会及び東京都教育委員会の教育目標・基本方針に基づき、本校の教育目標の実現を図ります。

<校訓> <教育目標>
「自主・創造・協力」 「よく勉強し、よく働き、そしてよく鍛える生徒」

1 目指す学校像 「楽しい学校 誇れる学校」 “生徒が自らの進路を自らの手で切りひらく力を育成する学校”の実現

(1)生徒一人ひとりがわかる実感・できる喜びを味わい、自分の良さを伸ばせる学校

「学ぶ意欲を喚起する授業」「わかる授業」「力の付く授業」を目指し常に授業を改善する。

「主体的に学ぼうとする」生徒を育成する。「文武両道」を奨励し、生徒一人ひとりの良さを伸ばす。

(2)「チーム中山」として、組織的に課題を解決する学校

学校運営協議会およびPTAとの連携と協働、教職員が「目標共有」「役割分担」「調整・統合」する。

(3)保護者が安心して子供を通わせ、相談に細やかに対応する学校

学校の教育活動を積極的に発信する。小規模校の良さを生かし顔の見える学校経営、学年・学級・教科経営を展開する。

(4)地域に愛され、応援される学校

教職員、生徒が積極的に地域行事に参画し、郷土愛、地域への愛着を育てるとともに、地域に愛され、応援される学校をつくる。

(5)教職員が夢をもち、いきいきと働ける学校

教職員が和気あいあいと協力し合い職務を通して自己実現する。そのために、風通しの良い職場風土を醸成する。校務の平準化を推進しライフ・ワークバランスを実現する。

2 目指す生徒像

(1)主体的に学び、行動する生徒 ～よく勉強し～

学ぶ目的をもって主体的に学ぶ、自分たちの生活にかかわる諸問題に対して、当事者意識をもって表現し、企画・提案・運営する、といった資質・能力を育てる。そのためにあらゆる教育活動を通してリーダーシップを一人ひとりの内面に育てる。

(2)互いを認め、支え合う生徒 ～よく働き～

人権意識と規範意識、思いやりをもった生徒を育成する。そのために学校生活の中で言葉遣い、あいさつの励行など、社会的スキルを磨く具体的な指導を行う。

(3)夢をもち、自己実現を目指す生徒 ～よく鍛える～

夢や理想に正直に「あせらず」「たゆまず」「おこたらず」取り組む生徒を育成する。そのために「はげまし」「みとめて」「あきらめない」ことを重視する。学年・学級・部活動等温かい人間関係を基盤としたきめ細かな支援を行う。

3 目指す教師像

～全体の奉仕者として信頼される人間的魅力にあふれた教師に～

- (1)生徒の良さを認め優しさと厳しさをもって粘り強く指導する教師
- (2)人権感覚を研ぎ澄まし、自他の人権を大切にする教師
- (3)教育公務員としての使命と責任を自覚し、資質・能力の向上に励む教師
- (4)組織の一員として協力しあい、自分の仕事にベストを尽くそうとする教師

(5)保護者や地域の方の良き相談相手となって頼りにされる教師

4 中期的目標と方策

(1)生徒一人ひとりの「生きる力」の育成

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を念頭に、知・徳・体のバランスを重視して生徒が社会で自立するための基盤となる「生きる力」を育む。生徒一人ひとりが「わかる実感、できる喜び」を味わい自分の良さを伸ばせるよう基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得、思考力・判断力・表現力等及び学ぶ意欲の向上を目指す。

(2)学校経営力・教職員の資質の向上

中山中学校グループの小中一貫教育校としてマネジメントサイクルを確立させる中で、教職員が個人、組織の力量を高め、組織体としての機能を向上させる。

(3)学校・家庭・地域との協働

学校運営協議会と連携しながら、地域に開かれ、地域とつながる教育活動を展開し、保護者・地域の信託に応える学校づくりを推進する。地域や校内において、青少対やPTA杉の沢会などと連携した取組におけるボランティア活動を推進し、郷土愛と社会貢献の精神を育む。

5 令和8年度の取組目標と方策 規律ある学校を目指して

(1)教育活動の目標と方策(1年間の学校の教育活動全般についての指針)

①学ぶ意欲の向上・体力の向上 ～「わかる実感」「できる喜び」を味わえる授業～

各種学力調査の結果を活かし、指導の積み重ねを通して生徒に「わかる実感」「できる喜び」を味わわせる指導の充実を図る。一人一台の学習用端末を適切に使い学ぶ意欲を向上させる。学習指導要領の趣旨を活かし指導と評価の一体化を図る。

②所属感・意欲の向上 ～居心地がよく、やる気が出る学級～

楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U及び構成的グループエンカウンターを年間通して活用し、規律のある中で居心地がよく、やる気が出る学年・学級集団を作る。自ら作る生徒会活動及び学校行事を展開する。

③「チーム中山」学校力の向上 ～地域・保護者・小中の連携～

地域運営学校として、中山中学校グループの三校が「グランドデザイン」を共有し、「目指す児童・生徒像」を具現化する。

地域と連携・協働した教育活動をいっそう充実させる。地域(自治会、青少対等)、PTA杉の沢会と連携し、生徒中心の学習活動やボランティア活動を展開する。地域と生徒の交流ひろば「中山カフェ」、サロン「風」を定着させ子どもの居場所づくりを進める。

(2)重点目標と成果の検証

【学習指導】

①各教科において、「個別最適な学び」「協働的な学び」を意図的に取り入れた授業を展開し、思考力・判断力・表現力等を育成する。

②国語の朝学習(読書含む)を年間通して実施し、語彙力を高め・表現力等を育成する。

③一人一台の学習用端末を活用した授業や、学習用端末を使わない学習の改善を進め、学ぶ意欲を一層高める。学習用端末の持ち帰りドリルコンテンツ等の活用を組織的に進め、学習習慣の確立を目指す。

④学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導を展開し、指導と評価の一体化を図る。

⑤総合的な学習の時間では、一貫校グループの小学校と連携し、既習内容を活用したキャリア教育を行う。

⑥自ら学んだり、互いに教えあったりする習慣を身に付けさせ、基礎・基本の定着を図る。主に第5学習室を利用して年間を通した自習室の開設、放課後学習教室の開催、学力強化週間における質問教室の開設を行う。

⑦学校運営協議会の主催による英語検定、漢字検定を実施する。

◇成果検証

①「学校は授業において、説明、板書、発問、視聴覚機器(ICT機器)の活用などの工夫に取り組んでいる。」保護者 65%以上
「自分は授業で発言したり、友達と意見交換したりしている。」生徒 60%以上
校内研修を実施状況

②「学校の子どもの学習活動に対する評価は適切・公平である。」保護者 80%以上

③放課後学習教室、質問教室等の開催状況

・学習用端末の持ち帰り及びドリル型コンテンツの活用状況

・市学力調査における習得目標問題達成状況

④英語検定、漢字検定の実施状況

【生活指導】

- ①生徒会を中心に施学校生活の決まりやルールについての見直しをさせることを通して、規律ある学校を継続する。
- ②楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U及び学級経営についての研修を行う。
- ③「中山中いじめ防止基本方針」に基づき、「心の週間」「ふれあい月間」「いじめ・いやがらせアンケート」「子ども見守りシート」及び「SOSの出し方に関する教育」「いじめ防止研修」や、「セーフティ教室」等の情報モラル教育を実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を組織的に行う。
- ④不登校対策巡回教員を中心に、SSW 等関係機関との連携や学校サポーターの組織的な活用を図り、不登校生徒へのきめ細やかな支援を充実させる。不登校生徒対応教室を設置する。
- ⑤特別支援教室(あじさい教室)との連携を強化し、生徒個々の課題に対する対応力を高める。

◇成果検証

- ①校内研修会の実施状況
- ②「学校はいじめの未然防止への取組、いじめの早期発見、早期対応等いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる」保護者 70%以上
「自分は、友達をいじめることなく、大切にしている。」生徒 90%以上
情報モラル教育の実施状況
- ③関係機関との連携状況、別室登校等の活用状況

【進路指導】

- ①生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて、1年次より系統的な指導を行い、体験的な学習を重視し、望ましい職業観や勤労観を育成する。
- ②前年度までの進路状況を分析し、個々の進路希望に応じた支援に生かす。

◇成果検証

- ①「学校は はちおうじっ子 キャリア・パスポート等を用いて、児童・生徒の生き方や将来についての指導をしている(ことを知っている)」保護者70%以上 生徒70%以上
- ②三者面談の取組

【学校運営】

- ①地域と連携した組織的な取組を推進し、生徒の愛校心及び地域への愛着を高める。
- ②特別支援教室の運営にあたり、特別支援教室専門員及び校内特別支援委員会を通し上柚木中学校と連携する。
- ③生徒のコミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係の基盤として、あいさつプラス一言運動を展開する。
- ④中山中学校グループ(中山中・中山小・高嶺小)との連携をすすめ、児童・生徒交流(部活動見学や授業体験、リトルティーチャー、はちおうじっ子サミット)、小中一貫の日の教職員交流や情報共有を行う。
- ⑤開かれた学校を目指し、学校ホームページやホーム&スクール等を活用して保護者・地域の信託に応える情報発信を行う。

◇成果検証

- ①「中山中は地域との関わりを重視した教育活動を行っている」保護者 90%
「毎日の学校生活が楽しい。」生徒 80%以上
- ②特別支援教室の運営における連携
- ③「学校が力を入れて行っている取り組み(あいさつの励行)について知っている。」保護者 85%以上
「自分は、学校が力を入れている取組(あいさつの励行)を知っている。」生徒 85%以上
- ④「近隣の小学校と一緒にいる取組について知っている」保護者 90%以上、生徒 80%以上
- ⑤「学校は、保護者(地域)に対して適切に情報発信を提供している」保護者 80%以上、地域 70%以上
学校ホームページの更新状況

【特別活動・その他】

- ①学校行事、生徒会・委員会活動等に生徒が主体的に活動することにより、集団生活における自己の役割を自覚し、自己の責任を理解するなどの社会性を育成する。
- ②学校の環境整備を計画的に実施すると共に、生徒への清掃指導を徹底し、学習環境の維持・向上を図る。
- ③地域と連携した安全指導を実施する。「総合防災訓練」へのボランティア派遣、1年生「普通救命講習」を実施する。

◇成果検証

- ①「中山中の子供たちは楽しそうに学校生活を送っている。」保護者 85%以上
「毎日の学校生活が楽しい。」生徒 80%以上
- ②「学校は学習環境の整備や清掃活動に取り組んでいる」保護者 85%以上

「自分は、整理・整頓や清掃活動に熱心に取り組んでいる。」生徒80%以上

③地域「総合防災訓練」への派遣状況

「学校は生徒が安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全管理に取り組んでいる」

保護者 70%以上、生徒 75%以上

【能力開発、ライフ・ワークバランスの充実】

①教職員一人ひとりが、チームとしての学校力の向上に向け、自己の能力を高め、研究・研修に努める。

②服務事故防止についての理解を深め、教育公務員としての意識を高める。

③学校閉庁日やノー残業デー、ウインタータイムの導入、ホーム&スクールや校務支援システムを活用し働き方改革を推進する。

◇成果検証

①「学級は落ち着いて学習できる雰囲気である。」保護者 80%以上

「自分は落ち着いて学習に取り組んでいる。」生徒 85%以上

②服務事故防止研修の年間3回の実施

③学校閉庁日、ノー残業デーの実施、C4th の活用

【令和8年度の重点】

目指す学校像を実現するために、昨年度の反省を活かし、全教職員が情報を共有し、規律ある学校づくりを重点とし取り組む。

(1) 規律ある指導

① 教科指導

・授業ルールの明確化及び順守

・個に対応した指導 授業に参加していない生徒、寝ている生徒をなくす。

・授業中の生徒の様子を把握

・学習用端末を使用する時と使用させない時を明確化

② 生活指導

・生活ルールの明確化、教員が順守(廊下を走らせない、奇声を発させない、服装等)

・学年枠をなくした指導(全教員が全生徒を指導)

(2) 規律ある学習

○ 各教科において、「個別最適な学び」「協働的な学び」を意図的に取り入れた授業を展開し、思考力・判断力・表現力等を育成する。

○ 八王子版GIGAスクール構想に基づく一人1台の学習用端末を活用した授業を展開し、学ぶ意欲を喚起するが、端末を使用してよい場面を限定し、端末を使用しない学習も大切にする。

○ 授業のユニバーサルデザインを念頭に授業の構造化を図り、どの子にもわかりやすく取り組みやすい板書や画面提示、指示を工夫する。

(3) 規律ある学習環境

○ 掲示物の内容、表示期限を確認する。終わった掲示物、色あせた掲示物、破けた掲示物はそのままにしておかない。

○ 特別支援教育の観点から前面黒板の周囲は、資格情報を減らして授業への集中力を高めるため、なるべく掲示物や物を置かない。